「おじいちゃんになれた日」

トンちゃん　（60 代）

「じいちゃんと遊ぼうか？」

「・・・・・」

離れて暮らす長男夫婦が 3 才になる孫娘を連れて帰省した 2 年前の夏。

生まれた時、初孫ということもあり 家内と二人 いそいそと出向いて以来の再会である。

彼女からすれば 事実上 初めて接する爺さんだし 愛想の使える年でもないので やむないがそれにしてもガードが固い。

かなり警戒されていて 口を利いてくれない。

まあそんなもんだよ と自分を慰めながら みんなで近くの公園に遊びに行った時、近づいたら

「こないで！」と言われ ちょっぴりショックだった。

男性と女性で体から発するものが違うのか 家内に対してはそういったこともなく おばあちゃんと呼び 親しんでいた。

そして あっという間の 3 日間が過ぎ 息子家族は帰っていった。

年が変わって 長女が結婚し その式に出る為 再び息子一家がやって来た。

弟くんも誕生しており 4 人家族での来訪である。

さて 上のお姉ちゃん、今回はどうかな？　一緒に遊んでくれるかな？

などと思いながら様子を伺えば やはりというか　かなり緊張感が漂っている。

そりゃそうだよ、久しぶりに会うんだもの 無理を言っちゃいけない、ゆっくり時間を掛けよう。

その日の夕方 風呂から上がって息子に髪を拭いてもらっている孫娘を微笑ましく見ていたその時である。

「おじいちゃん あそぼ」と言われた。

うん？ なになに？ 今 なんて言ったの？

「おじいちゃん あそぼ」

間違いなく私のことをおじいちゃんと呼んだ。　いや呼んでくれた。

「よーし、あそぼ あそぼ」と積み木箱をひっくり返しながら、息子にそっと「おじいちゃんって呼んであげたら って言ったのか？」と聞けば そんな圧は掛けてないとの由。

自発的に私のことを おじいちゃんって呼んでくれたんだと思うと 無性にうれしくなった。

もうそのあとは これまでのモヤモヤした気分が雲散霧消、怒涛のように「おじいちゃんこれして」「おじいちゃん あれして」と おじいちゃんの連呼で 彼女が寝るまで クタクタになりながら遊んだ。

「やったぜ！」 床に就いてから嬉しさが じんわり広がり 布団の中で ガッツポーズをした。

そして今年、私の 68 才の誕生日に息子から LINE で ビデオメッセージが届いた。

お姉ちゃんだけじゃなく 弟くんも 画面の向こうから「おじいちゃん おたんじょうび おめでとう」と祝ってくれている。

ありがとう、うれしいよ。でも じいちゃんには 誕生日よりうれしい日が 実はあるんだ。

カレンダーの 9 月 7 日、赤い二重丸が付いてるだろ。

初めて お姉ちゃんが“おじいちゃん”って呼んでくれた日、家族として認めてくれた日だ。

その日はね、じいちゃんにとって 記念すべき日、“おじいちゃんになれた日”なんだよ。

離れて暮らしていても みんな家族だ。　また遊ぼうね。